

第 22 回優秀会社史賞 入賞作品 受賞のことば

『パナソニック百年史』

このたびは、栄誉ある第 22 回「優秀会社史賞」に選出いただき、誠にありがとうございました。編纂メンバー一同、大変光栄に思っております。選考に携わっていただきました宮本先生はじめ選考委員会の先生方には心より御礼申し上げます。

本社史は、当社の創業 100 周年記念事業の一環として、4 年 7 カ月をかけて編纂したものです。「継承すべき会社の遺伝子をあまねく全社員に伝える」社員向け社史に加え、本社史は、「未来の経営判断に資するため、100 年間の経営の歩みを冷静、的確に伝える」ことを目的に編纂しました。

性格の違う 2 種類の社史を同じメンバーが手づくりで、しかも同時並行で編纂することは、想像以上に難しく、時には片方の進行が滞ることもありました。また、次代の経営幹部が、経営判断をする時に役立つものにするために、成功の歴史だけでなく苦難の史実を客観的に記述することは、近年になるほど難しく、議論に議論を重ね、何稿にもわたって推敲を繰り返しました。

そんな私たちメンバーの拠り所となったのは、創業者・松下幸之助の「自己認識に正しさを得るならば、どんな困難をも乗り越え、発展し続けることができる。歴史というものは、自己認識において誤りなきを期するに、有力な手がかりを与えてくれるもの」という言葉であり、その言葉にふさわしい社史を作らなければならない、作りたい、というメンバーの強い使命感と願いでした。

そして、その思いを、社長をはじめとする編纂委員会の皆さんが陰に陽にサポートしてくれました。今回、この賞をいただけたのは、編纂委員会の皆さん、制作面から支えて下さった印刷会社の編集スタッフ、編纂メンバー、全員の力によるものだと思います。

本社史の編纂を通じて、社史とは、未来の会社、社員のために作るものである、

ということを改めて感じました。本社史が、少しでもその意図に合致したものになっていることを願いつつ、社史編纂に携わるすべての方々が、そこに使命感とやりがいを感じて取り組まれることを心から祈っております。

(百年史編纂プロジェクト リーダー 中西雅子)



百年史編纂委員長のパナソニック株式会社 社長 津賀一宏と、百年史編纂プロジェクト リーダー 中西雅子